LiDAR損傷検知ツール　使い方

写真から、ひび割れの図面と3Dを作る手順

現場で撮った写真から、図面と3Dができるまでを、7つの手順で説明します。
画面はすべて本番の実物です。同じ内容の動画も、ツールの「使い方」から見られます。

2026年11月21日版

全体の流れ

人がやるのは、撮る・大きさを合わせる・確かめるの3つ。あとは道具が写真から作ります。

1	2	3	4	5	6	7
ひびをチョークでなぞって、撮る	写真を選んで、3Dを作る	本物の大きさに合わせる	チョークの線と数字を読み取る	図面の正しい位置に書き込む	提出する書類を受け取る	3Dで、ひびの場所を確かめる
人がやる	道具が自動でやる	人がやる	道具が自動でやる	道具が自動でやる	道具が自動でやる	人がやる

人がやる　　道具が自動でやる

ツールの画面は「Step 1 案件を始める → Step 2 損傷箇所を撮影 → Step 3 面に割り当てて転記 → Step 4 出力して提出」の順に進みます。

この説明の「」の中は、画面に出ているボタンや項目の名前です。

1 / 7

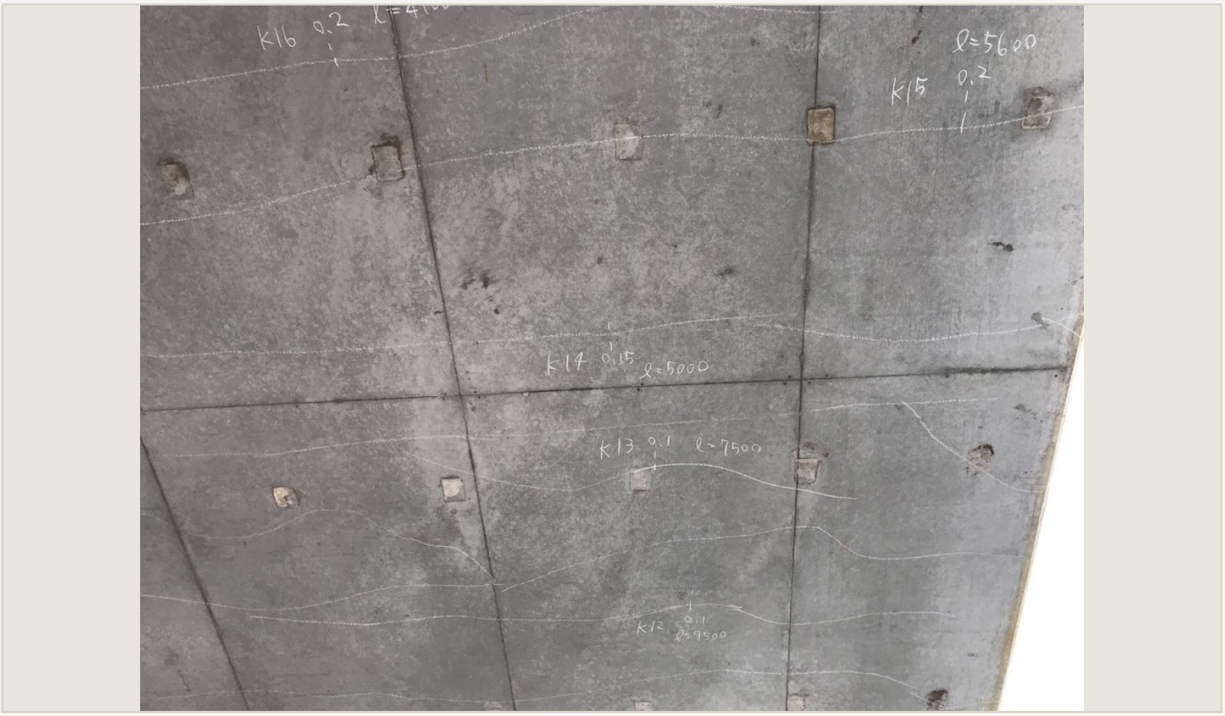
ひびをチョークで なぞって、撮る

■ 人がやる

やること

1. ひびを白いチョークでなぞる
2. 横に、番号・幅・長さを書く
3. 同じ壁を2〜8枚、隣の写真と半分ほど重ねて撮る

撮影は、画素数の高い iPhone かデジカメで。



写真の例。白い線がチョーク、横の数字はひびの番号・幅・長さです

2 / 7

写真を選んで、3Dを作る

■ 道具が自動でやる

やること

1. Step 1 で案件名を入れる
2. 「C ない（3Dデータから作る）」を選ぶ
3. 「写真を選んで3Dを作る」を押し、撮った写真をまとめて選ぶ
4. 少し待つと、壁の3Dとベース画像ができる

できた3Dは「3Dで見る」ですぐ確かめられます。



写真を選ぶと、少し待つだけで壁の3Dができあがります

ことば　**3D（スリーディー）**
いろいろな向きから見られる、立体の模型のこと。

3 / 7

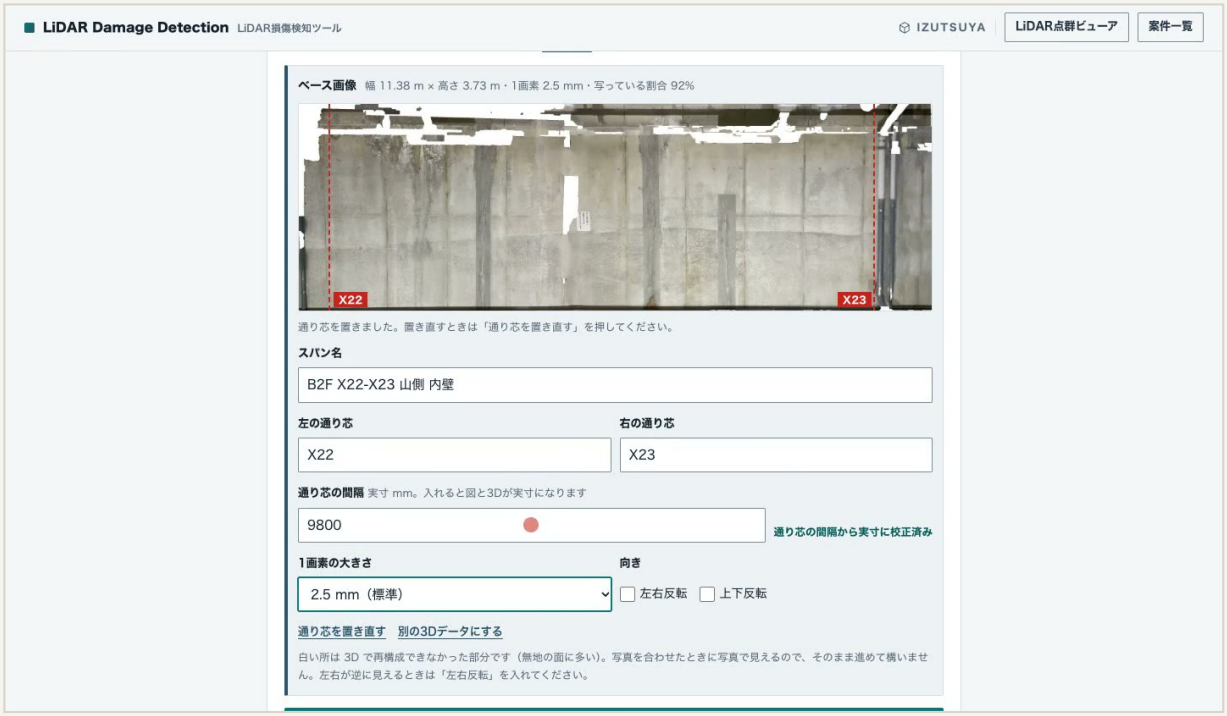
本物の大きさに合わせる

■ 人がやる

やること

1. ベース画像の上で、左の通り芯 → 右の通り芯の順にタップする
2. 「通り芯の間隔」に、実寸（mm）を入れる

基準マーカーが写っていれば、自動で実寸になります。



柱の位置に線を2本置き、その間の長さ（9,800mm）を入れています

ことば　**通り芯（とおりしん）**

柱の中心を通る基準の線。線どうしの間隔は図面で決まっています。

4 / 7

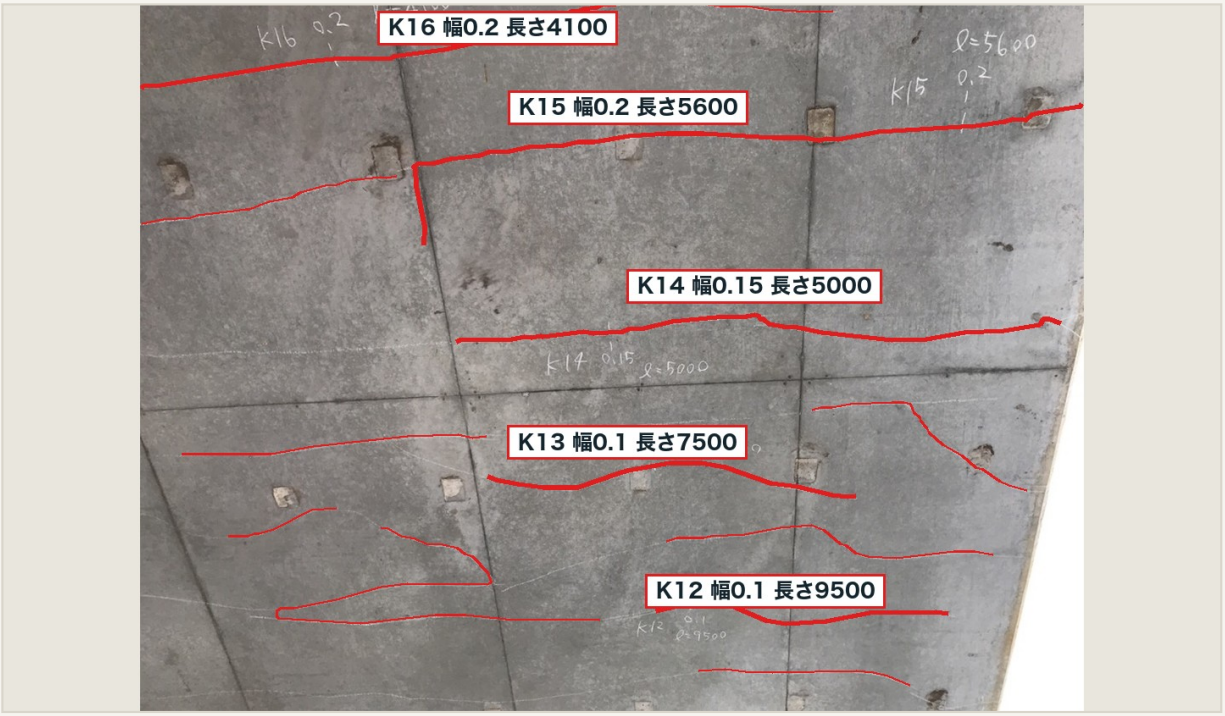
チョークの線と数字を読み取る

■ 道具が自動でやる

やること

1. 「次へ：損傷箇所を撮影」を押して Step 2 へ
2. 写真を開き、チョークの取り込みを「線と手書き数字」にする
3. 「チョーク線を取り込む」を押す
4. 「要確認」に出た数字を写真で確かめ、「確認して反映」を押す

数字に重なった線には、自動で幅を入れず「要確認」に出します。足りない線は、ペンで描き足せます。



読み取った結果。赤い線がひび、白い札が読み取った番号・幅・長さです

ことば　**K番号**
ひび1本ごとに付ける番号（K12、K13 …）。

5 / 7

図面の正しい位置に書き込む

■ 道具が自動でやる

やること

1. 「次へ：面に割り当てて転記」を押して Step 3 へ
2. 写真ごとに「位置を合わせる」を押す
3. 示された位置を確かめて「この位置で採用」を押す
4. 「検出して展開図へ転記」を押す

チョーク・ペン入れの線は、書いた幅のまま転記します。使わない写真は、行の「削除」を押します。



写真を当てはめる位置を道具が示し、人が「この位置で採用」を押します

ことば　**展開図（てんかいず）**
壁を正面から見て、平らに描いた図面。点検の報告に使います。

6 / 7

提出する書類を受け取る

■ 道具が自動でやる

やること

1 「次へ：出力して提出」を押して Step 4 へ

2 「提出物」から、必要な書類をダウンロードする

損傷図・クラック一覧・点検カルテ・写真台帳・実写の重ね図が出ます。



図面・ひびの一覧・写真の台帳などを、この画面から受け取れます

ことば　**CAD（キャド）**

図面を描くための専用ソフト。その形式のまま受け取れます。

7 / 7

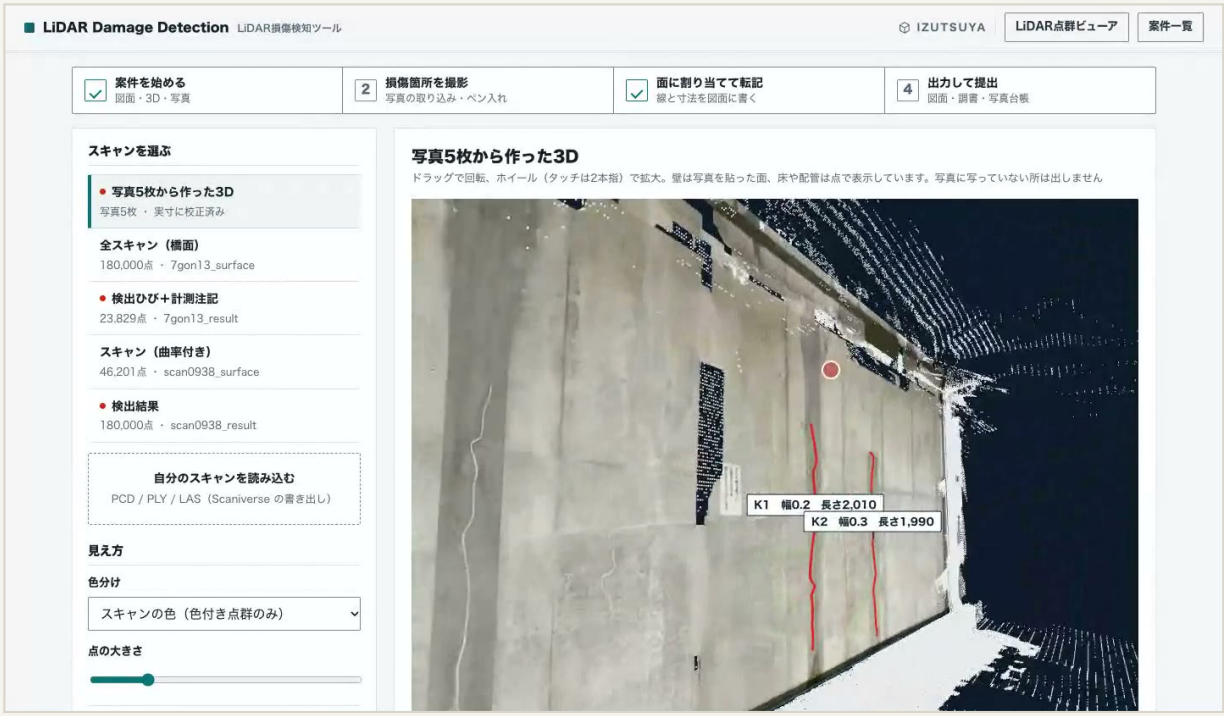
3Dで、ひびの場所を確かめる

人がやる

やること

1. 画面右上の「LiDAR点群ビューア」を押す
2. 3Dをドラッグして回し、ひびの線の場所を確かめる
3. ラベルを押すと、元の写真が開く

3Dの長さは、大きさ合わせ（3番）が済むと出ます。



立体の壁の上に、ひびの赤い線と、番号・幅・長さが出ます

ことば　**なぜ3Dも出すのか**

図面だけでは分かりにくい「実際の場所」を確かめるためです。

うまくいかないとき

3Dに長さが出ない

大きさ合わせ（3番）がまだです。通り芯を2本置き、間隔（mm）を入れてください。

読み取った数字が違う

読み取りの確認一覧で直せます。足りない線はペンで描き足せます。

読み取った数字が「要確認」になる

数字に重なった線や、数字の脇を探し直して見つけた線には、自動で幅を入れません。写真で確かめて「確認して反映」を押すか、ペンで線を引いて対応付けてください。

AI検出の線が図面に出ない

初めは、チョーク・ペン入れの線だけを転記します。AI検出の線も入れるときは、Step 3 の写真の行の「AI」に印を付けてください。転記の設定の「AI検出を転記に使う（初期値）」でまとめて変えられます。

幅の細いひびを図面から外したい

書いた幅は、そのまま転記します。細いひびを外すときは、転記の設定の「チョーク・ペン入れの線にも幅の下限を適用する」に印を付けてください。転記の前に、外れる線の一覧が出ます。

割当から外した写真を戻したい

行の「削除」を押した写真は、割当の一覧の下の「転記に使わない写真」に入ります。「転記に戻す」を押すと戻ります。

ベース画像に白い所がある

3Dで再構成できなかった部分です。写真を合わせると写真で見えるので、そのまま進めて構いません。

前に作った案件が見つからない

案件一覧には、その端末で作った案件が出ます。作ったときと同じ端末で開いてください。